

『研究者のための
アメリカ国立公文書館徹底ガイド』

仲本和彦／著

凱風社 2008/6 229p 22cm 2,625円 (税込)



アーカイブズに関わる人びとにとって、アメリカ国立公文書館 (National Archives and Records Administration: NARA) という固有名詞は特別の響きを持っているといえる。アーカイブズの先進国アメリカの総本山に、誰もが一度は「参拝」してみたいのではないだろう

うか。

とはいえ、約2500人のスタッフと33の関連施設を抱える巨大組織と聞いてしまうと何やら怖じ気づいてしまうし、実際に行ってみても、どうしたらいいのか何をしたらいいのか立ちすくんでしまうような先入観があることも事実であろう。

本書は、12年もの長きにわたって沖縄県公文書館による沖縄関係資料の調査収集に従事してきた著者が自らの経験を基にNARAの活用方法をわかりやすく解説したものであり、行ってみたいけど二の足を踏んでいる人たちにとって必読の本といえよう。

本書の構成は以下の通りであるが、NARAの資料を調査することを目的とする人たち—多くは研究者—を読者に想定しているため、本誌の主要な読者であるアーカイブズ機関に関わっている人などにとっては、自治体史編纂などで調査に行くことでもない限り直接関わりのない内容と思われるかもしれない。しかし、本書は単なる資料調査のガイドブックではなく、NARAとはいかなる組織であるのか、どんなサービスを提供しているのかが分かるような構成になっており、NARAそのものについてのガイドブックにもなっている。そして、目次を一見すればあらゆる基本的な情報を懇切丁寧に伝えようという著者の気持ちが伝わってくるのがわかるのではなかろうか。

第1章 出発前の準備

- 第1節 アーカイブズの特徴を知ろう
- 第2節 国内の図書館等でできる事前調査
- 第3節 インターネットを使った事前調査
- 第4節 旅の手配
- 第5節 現地に着いたら

第2章 カレッジ・パークでの調査・収集

- 第1節 NARA新館「Archives II」
- 第2節 諸手続き
- 第3節 調査のノウハウ
- 第4節 収集のノウハウ
- 第5節 アラカルト情報

第3章 主な資料群

- 第1節 レコード・グループの概要
 - 第2節 日米外交関係資料
 - 第3節 第二次世界大戦関係資料
 - 第4節 日本本土占領関係資料
 - 第5節 沖縄関係資料
- ## 第4章 文書(紙媒体)以外の資料の調査・収集
- 第1節 写真資料
 - 第2節 映像と音声資料
 - 第3節 図面資料
- ## 第5章 カレッジ・パーク以外のNARA傘下施設
- 第1節 NARA本館 (Archives I)
 - 第2節 大統領図書館
 - 第3節 レコード・センターと地域文書館

まず、第1章では、アーカイブズという組織の簡単なガイドから始まって、日本国内にある資料集やマイクロフィルム、NARAホームページの検索機能などを活用した事前調査の手引き、さらには渡米に際しての注意からホテルの手配、交通手段といった旅行ガイド的な情報までNARAを実際に訪れる前の準備についての基本情報が簡潔にまとめられている。特にNARAのホームページは初心者にはわかりづらいところがあり、またデータベース検索も決して十分なものとはなっていない。本書がホームページの使い方について必要最小限の情報を提供していることは評価できよう。

つぎに第2章は、実際にNARAで調査を行うについての基本情報(利用者登録・目録の見方・申請書の書き方・資料の借り出しと返却方法・写真撮影やコピー複写の仕方・アーキビストやリサーチャーの活用方法など)を提供しており、本書の中核部分ともいえる。NARAはワシントンD.C.にある本館とD.C.北東郊外のカレッジ・パークにある新館の2ヶ所があり、日本の研究者・アーキビストにとって馴染みが深いのは新館である。本書も新館を対象にして、初心者が戸惑うであろうポイントを実に的確に整理して、その対処方法を提供している。

NARAの閲覧システムはマニュアル化されているので、流れさえ掴めば実に使いやすいが、その流れを掴めないうちは実に使いづらい。とりわけ日本の目録に慣れている人にとっては、目録を見て申請書に記入する方法を理解するまでに一苦労する。初心者はNARAに行った当日はそのシステムを理解するだけで終わってしまい、数日かかってやっと資料を請求して閲覧できるまでになるが、本当にお目当ての資料に辿り着くにはそれでもまだ数日が必要となる。また、初心者でなくてもだいたい1日は手続きや何やらで終わってしまうことを覚悟しなければならない。すなわち、NARAで本格的に調査したければ、最低1週間は必要であろう。こうした事情を考えると本書を読んでおくだけで1～2日分は節約できるという利点がある。

第3章は、日本との関わりの深い資料群についてのガイドである。アメリカの政府組織は巨大であり、また関わる事項が全世界に及ぶので組織の役割を理解し、目的とする資料が含まれる資料群を探し出すのも大変な労力を要する。本章ではとくに関心の高い日米関係をはじめ、第二次世界大戦関係および日本占領関係、さらには沖縄統治関係についての手引きとなっており、これらの資料を利用しようとする人にとっては有益な情報源となっている。また、本章では単なる資料紹介ではなく、これらの資料群の概要を通してアメリカ政府文書の資料群構造の大枠がわかる記述になっている。

第4章は、写真・映像および音声・図面といった紙媒体資料以外の資料の利用方法を紹介している。これらの資料はNARAにとって特徴的なものであって、単に利用するだけではなく、その保存・公開についてNARAはどのようなシステムを取っているのか、その概要だけでも知っておく価値はあると思う。

第5章は、NARA本館や大統領図書館、レコード・センター（中間書庫）や地域文書館についてのガイドである。また、本章によってNARA全体の組織や役割が一般の人でも理

解できるような構成になっており、簡潔であるが有益な内容となっている。

この他、本書の特徴としては、「コラム」や「豆知識」・「ワンポイント・アドバイス」・「裏話」・「裏技」といった小欄を駆使して、在米中に筆者が体験したことや学んだことすべてを惜しげもなく多くの利用者に伝えようという姿勢に徹していることである。世界各地のアーカイブズを利用するアーキビストや研究者は多く、しばしば利用ガイドや所蔵資料の紹介などが行われている。ただ、多くは雑誌などで発表されるに止まり、著書として多くの人びとの目につくようなものとなっていない。そのような点で本書のような広く一般向けを強く意識し、なおかつ密度の濃いガイドブックは類例を見ない。

なお、本書では触れられていないが、NARA本館にある展示室は是非見ていただきたい。「アメリカとはいかなる国家であるのか」、その大命題に対する答えをアーカイブズを使つて的確に示唆しようとするNARAのコンセプトと展示手法は大いに参考とすべきであろう。近年、日本国内のアーカイブズ機関では、普及活動の一環として展示に関心が集まっているが、評者は歴史資料中心の博物館的展示に対して批判的な立場を取る。博物館とは一線を画したアーカイブズ独自の展示とはいかなるものであるか、そのヒントをNARAの展示は与えてくれると思う。

さて、評者も毎年NARAに行つて調査を続けているが、最初に行つた時には、仲本氏に随分お世話になったものである。その経験からすると、本書を読んだ読者も是非、実際にNARAに行つて自らの目でアメリカのアーカイブズ制度を体感して欲しいと切に思う。

評者は、国内外のアーカイブズは極力、表敬訪問ではなく利用者の立場で行き、実際に使つてみることを心掛けている。利用者の立場でアーカイブズを利用してみると、表敬訪問ではわからないそのアーカイブズの良さや問題点が明確に認識できる。

優れた医者は、時に自らが患者となって患

者の気持ちを理解することを心掛けるという。アーキビストも時に利用者になって利用者の気持ちを理解するよう常日ごろ心掛けるべきであろう。NARAを利用するとNARAの優れた点もわかると同時に、非常に多くの問題点にも気づく。いかなる制度も完璧なもの無く、アーカイブズ制度もその例にもれない。アメリカにおいてもアーカイブズ制度は高度に発展はしているが決して完璧なものではなく、多くの問題を抱えており、日々改善が求められてもいる。また、アメリカという国家の政治制度の中で生まれ、アメリカという社会に応じた運用が行われている以上、他国にそのまま応用できない面も多分に持っているし、また範とすべき面も当然持っている。

こうしたアーカイブズ制度の本当の姿は、その制度を利用することによって始めて見えてくるものである。評者は利用したこともない人が語るその国のアーカイブズ制度の紹介や解説を根本的には信じていない。その面からすれば、本書は利用し尽くした人のみが知り得るNARAのガイドブックとして信用するに足るものといえよう。

最後にアーキビストは自機関のアーカイブズを適切に管理し提供することが主務であるが、それ以外に、一般の人に対してさまざまな手段を通じて、いかにわかりやすく自機関の利用方法を伝えるかを考えなければなるまい。本書は他機関のガイドブックであるが、自機関のガイドブックとして応用可能な内容であり、実に良いお手本といえよう。本書の表紙には、「アーキビスト」と筆者の肩書きが明記されているが、まさにアーキビストの名にふさわしい仕事であるといえる。

〔国文学研究資料館 加藤 聖文〕